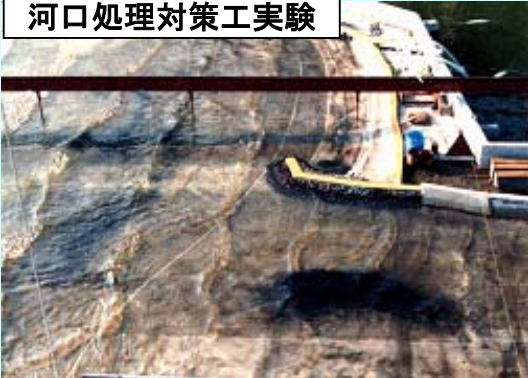


海岸水理模型実験

河口処理対策工実験



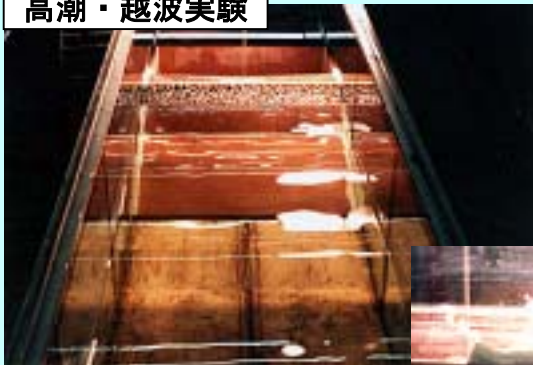
砂浜海岸に流出する河川では、河口砂州が発達しやすく、河川水位のせき上げ(治水安全度の低下)や航路利用障害などの発生要因となります。

実験では、現況の河口閉塞状況を再現し、種々の対策工による効果を検討し、最適な対策工法を提案します。

(実績)

- ・橋本川河口処理水理模型実験(H3)
- ・新川河口処理水理模型実験(H2)
- ・仁淀川河口模型実験(H元)

高潮・越波実験



(水路実験)



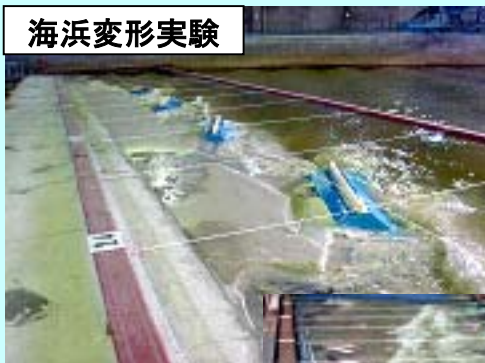
高潮や高波、津波により、海岸堤防を越波して浸水被害が発生します。

実験では、水路実験や平面水槽実験により、堤防の形状や堤脚部の保護工について検討し、最適な堤防諸元を提案します。

(実績)

- ・下新川海岸水理模型実験(H15)
突堤の透過率の実験的検定
- ・霞ヶ浦消波材(粗朶)の透過率検討実験(H12)
- ・阿田和地区海岸人工リーフ安全性検討業務(H9)
- ・水中独楽現象実験(H4~H6)

海浜変形実験



河川からの土砂流出の減少や、海岸構造物の漂砂移動の阻止等により海岸線の後退が進んでいます。海岸侵食の制御工法として、①海岸護岸、②突堤、③離岸堤、④養浜、⑤人工リーフ、⑥ヘッドランド等が挙げられます。

実験では、現況の侵食状況を再現し、そのメカニズム把握するとともに、最適な侵食対策工法を提案します。

(実績)

- ・富士海岸水理模型実験(H12~H13)
- ・ヘッドランドの沿岸漂砂制御機能に関する実験(H13)
- ・沿岸漂砂による海浜変形に関する実験(H12)
- ・ヘッドランド水理模型実験(H7)
- ・マレー島海岸防災計画水理実験(H2)